

< 2 5 - 0 6 >
2 0 2 5 年 2 月

先生各位

「非結核性抗酸菌 感受性(耐性)検査」 検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、非結核性抗酸菌の感受性(耐性)検査試薬の現行試薬販売中止に伴い、測定試薬および実施薬剤を変更させていただきます。

何卒ご高承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■対象項目:

項目コード	検査項目名	変更理由
856	非結核性抗酸菌 感受性(耐性)検査	測定試薬の販売中止

■変更実施日:

2025年 4月 1日 (火) 検査実施分より

以上

※ 裏面をご覧ください。

●非結核性抗酸菌 感受性（耐性）検査

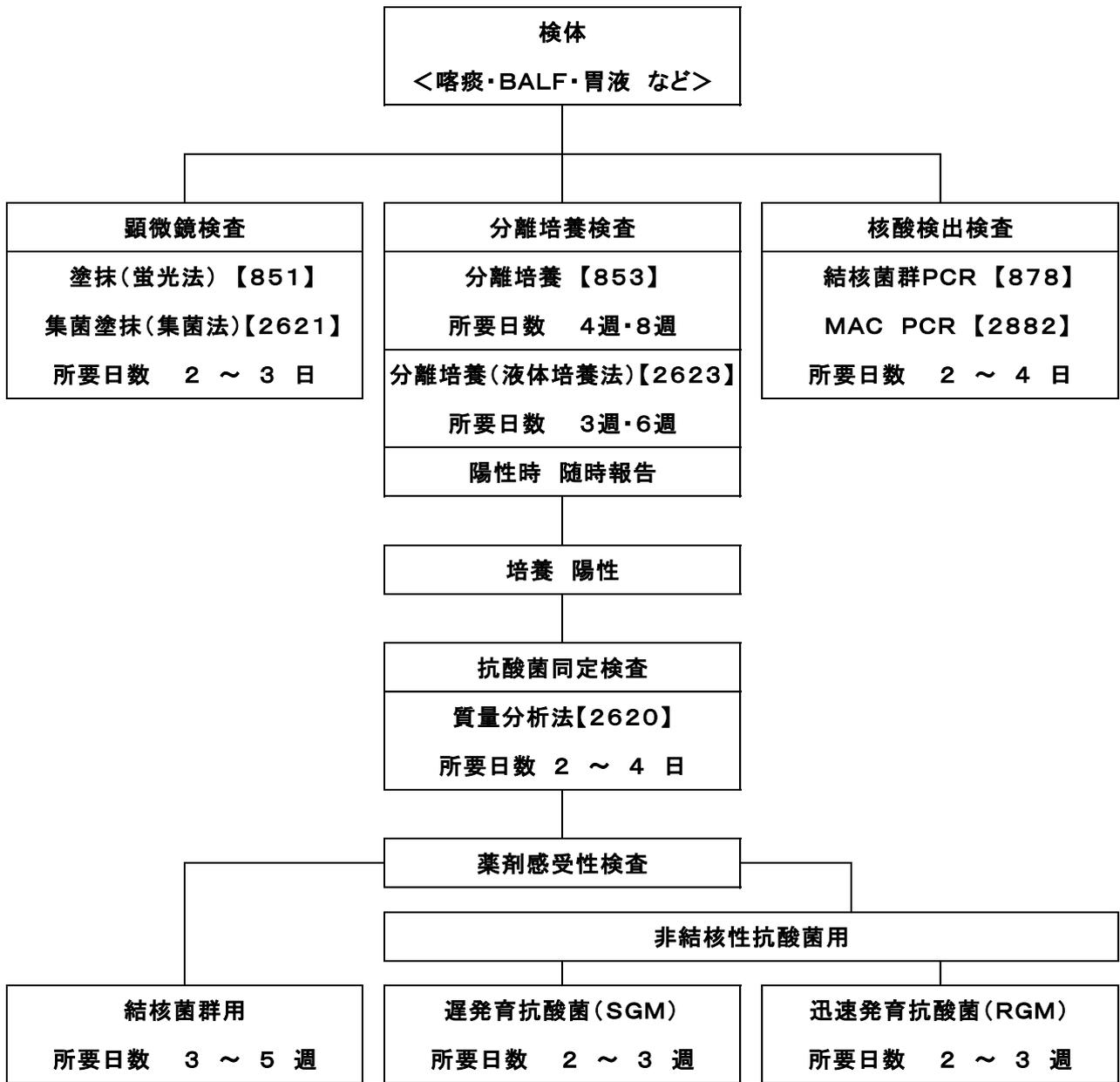
非結核性抗酸菌（non-tuberculous mycobacteria：NTM）は発育の速さによって、遅発育抗酸菌（slowly growing mycobacteria：SGM）と迅速発育抗酸菌（rapidly growing mycobacteria：RGM）に二分されます。SGMには、非結核性抗酸菌症で検出頻度が高いMAC（*Mycobacterium avium*と*M. intracellulare*）、*M. kansasii*などが含まれます。RGMはほぼ環境菌ですが、ヒトに対する病原性を持つ菌として*M. abscessus*、*M. fortuitum*、*M. chelonae*が知られています。なかでも*M. abscessus*は増加傾向にあり、MAC、*M. kansasii*に次ぐ感染が報告されています。非結核性抗酸菌症は多剤併用化学療法による長期間の治療を必要とするため、適切な薬剤選択が重要です。

なお、この変更により、検査内容、測定試薬、実施薬剤を変更いたします。

また、今回の変更はあくまで非結核性抗酸菌の変更であり、結核菌群に変更はございません。

	新		現
項目コード	856		同左
検査項目名	抗酸菌感受性(耐性)検査		同左
検査方法	液体培地希釈法		同左
検査材料	呼吸器材料/その他・菌株*1		同左
検査内容	遅発育 抗酸菌薬剤感受性検査	迅速発育 抗酸菌薬剤感受性検査	非結核性 抗酸菌薬剤感受性検査
測定試薬	プロスミックSGM*2	プロスミックRGM*3	プロスミックNTM
実施薬剤*4	カナマイシン (KM)	ファロペネム (FRPM)	ストレプトマイシン (SM)
	アミカシン (AMK)	イメペネム (IPM)	エタンプトール (EB)
	クラリスロマイシン (CAM)	メロペネム (MEPM)	カナマイシン (KM)
	アジスロマイシン (AZM)	アミカシン (AMK)	リファンピシン (RFP)
	ミノサイクリン (MINO)	トブラマイシン (TOB)	リファブチン (RBT)
	ドキシサイクリン (DOXY)	クラリスロマイシン (CAM)	レボフロキサシン (LVFX)
	モキシフロキサシン (MFLX)	アジスロマイシン (AZM)	クラリスロマイシン (CAM)
	シタフロキサシン (STFX)	ドキシサイクリン (DOXY)	エチオナミド (ETH)
	リネゾリド (LZD)	レボフロキサシン (LVFX)	アミカシン (AMK)
	リファブチン (RBT)	モキシフロキサシン (MFLX)	
	リファンピシン (RFP)	シタフロキサシン (STFX)	
	エタンプトール (EB)	リネゾリド (LZD)	
	イソニアジド (INH)	クロファジミン (CLF)	
	エチオナミド (ETH)	スルファメキサゾール (ST) ・トリメプリーム	
薬剤数	14	14	9
報告様式	最小発育阻止濃度MIC値(単位: $\mu\text{g}/\text{mL}$)をご報告いたします。		同左
所要日数*5*6	2 ~ 3 週		同左
保険点数/判断料	400点/150点(微生物学的検査)		同左
備考	<ul style="list-style-type: none"> * 1: 菌株の場合は、所定の保護ケースをご利用の上、常温保存にてご提出ください。 * 2: 検査対象菌種は非結核性抗酸菌の遅発育菌です。 * 3: 検査対象菌種は非結核性抗酸菌の迅速発育菌です。 * 4: 同定された菌種により、遅発育抗酸菌用試薬(プロスミックSGM)と迅速発育抗酸菌用試薬(プロスミックRGM)のどちらかを選択して検査いたします。実施薬剤の選択はできません。 * 5: 所要日数は、薬剤感受性検査に入ってからの日数です。(分離培養および前培養(増菌培養)日数は含まれません) * 6: 5週を越えて培養した培地上の菌株の場合、新鮮な培養菌を得るために、株を再培養する期間が必要です。 		

●抗酸菌検査フローチャート（推奨）



※【】内の番号は項目コードです